

## 第 17 回 SCCT 研究会参加報告

華岡青洲記念病院 山口隆義

皆様こんにちは、華岡青洲記念病院の山口です。あの暑かった夏は急にどこかに行ってしまいましたね。朝晩の寒さが身に沁みます。

さて、様々な学会や研究会がオンサイト開催となる中、SCCT 研究会も久しぶりにオンサイトで開催されました。今回は、自治医科大学附属さいたま医療センターの真鍋徳子先生が大会長を担当され、そのプログラムは、最新の心臓 CT に関する魅力的な講演が数多くありました。特に、後半では、CT で心筋評価を行うための基礎知識に関するセッションもあり、私も CT に関する技術的なお話しをする機会を頂きました。

まず、会場ですが秋葉原コンベンションセンターという事で、あのアニメの聖地での開催でした。その世界の皆様が街に溢れており、外国人のその道の方々も沢山いらっしゃいました。少しお店を覗くと、様々なキャラクターのフィギュアやグッズが並べられており、男子にはとても刺激的で懐かしいものが売られていました。特にフィギュアは良く出来ていて、思わず大人買をしてしまいそうになります。そのような衝動を抑えながら会場に向かいましたが、本当に久しぶりにお会いする方々が来場されていて、話が弾んでなかなか会場に入れないといった感じでした。

最初のスポンサーセッションでは、「高精細 CT と超解像画像再構成」というタイトルで藤田医科大学の河合先生がお話しされました。Precision と ONE の使い分けや特徴などを解りやすく解説されていました。フォトンカウンティング CT に関するお話もありましたが、会場の循環器医師からは、スライドに出ていた画質に関して鋭い質問などもありました。このようなやり取りもオンサイト開催ならではの感じました。

午後は教育セッションという事で、「心筋を診る」というテーマで、

「マルチモダリティイメージング」「撮影解析プロトコル(CT,MRI)」という2つのセッションがありました。心筋を診る目的は様々で、最近治療薬の開発に伴って心アミロイドーシスが注目されています。ガイドラインでも、MRIの代替えとしてのCTによるECV評価が掲載されるなど、徐々にCTによる遅延造影画像への関心が高まってきていると思われます。ですが、心筋遅延造影の評価といえば、やはり梗塞心筋の描出による心筋バイアビリティ評価が重要であり、基本になると思います。そこで、私の方からは、CTによる心筋遅延造影撮影の現状から、どのような事に注意しながら撮影を行うかなどを詳しくお話しさせて頂きました。振り返れば Aquilion Multi (4列) が導入され、心電図同期が可能となった時から遅延造影の評価を行なってきましたが、いよいよ本格的に日の目を見ることになり、感慨深いものがあります (20年かかりましたが・・・)。冠動脈CTが、虚血性心疾患の診断ツールとしてファーストラインになった今、もっと市民権が得られるように努めて参りたいと考えています。

やはり、オンサイト開催は刺激的ですね。コロナ前のように、画面越しではなく、同じ空気を感じながら議論しましょう！



前日にお邪魔した人形町の居酒屋  
くりから (穴子の串) と穴子入りつくね  
つくねは絶品でした！！